

しいの木 ニコニコだよ



B型肝炎ワクチン接種でお子様の健康を守りましょう 生後2か月の予防接種スタートと一緒にB型肝炎も接種しましょう

B型肝炎はどんな病気？

日本では毎年約2万人がかかる病気です。B型肝炎ウイルスは、体に入ると肝臓に炎症をおこし、長く肝臓にすみついて（慢性化・キャリア化）、肝硬変や肝臓がんをおこします。つまり、B型肝炎を予防するということは、将来の肝臓がんの発症を予防するということになります。

感染経路は？

- ・ B型肝炎を持ったお母さんから分娩の時に子どもに感染（母子感染）
- ・ ウイルスに汚染された血液・体液（唾液・汗・涙・鼻水・精液など）による感染（水平感染）

※ 近年、保育所での集団感染や知らない間にキャリアになった父、祖父母などからの感染もめずらしくありません。血液に直接接触する機会の少ない日常生活でも唾液・汗・涙・鼻水などから感染する可能性があります。

感染するとどうなるの？

- ・ 感染すると疲れやすく、黄疸が出ることがありますが、症状が軽く自覚しないまま病気が進行することがあります。このため、知らずに周囲の人にうつしてしまうこともあります。
- ・ こどもでは感染すると大人よりキャリア化（ウイルスを体内に保有した状態）しやすく、1歳未満は90%・1～4歳は20～50%・それ以上は1%の確率でキャリアに移行します。
- ・ キャリアになるとその後、慢性肝炎になることがあります。また慢性肝炎からは、肝硬変や肝臓がんなどの命にかかわる病気が引き起こされることがあります。

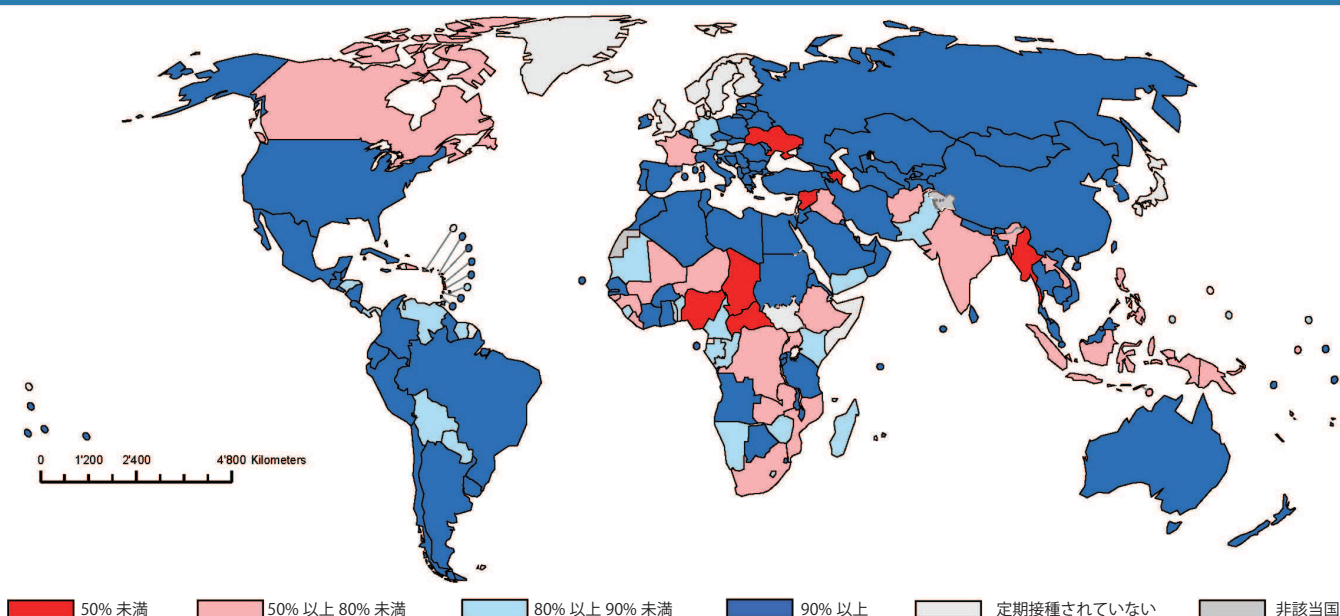
しいの木 ニコニコだよ



B型肝炎ワクチンについて

- ・ 乳児早期にB型肝炎ワクチンを接種すると99%以上で抗体が獲得できます。
- ・ 感染防止効果は20年以上続き、安全性も高いことが確認されています。
- ・ 2012年時点、世界でB型肝炎ワクチンの定期接種を導入していない国は、わずか7%で、ほとんどの国で定期接種されています。
- ・ ワクチンの定期化を待っていても、その間にも日常生活での感染のリスクは続きます。
- ・ お子さんの健康を守るため、定期化を待たず日本小児科学会の推奨どおり、生後早期からのワクチン接種をお勧めします。
- ・ 接種回数は3回で、通常は4週間隔で2回、さらに20～24週間経過した後、3回目を接種します。
- ・ 1回目は生後2か月・2回目は生後3か月・3回目は生後8～9か月頃に、他のワクチンと同時接種で3回接種するのが一般的ですが、それ以降でも有効ですので、思い立った時に接種を開始してください。

乳幼児にB型肝炎の予防接種を3回接種している国



出典：WHO/UNICEF coverage estimates 2012 revision, July 2013. 194 WHO Member States